

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22330219

研究課題名(和文) 飯田下伊那における学校史料と地域社会に関する基盤的研究

研究課題名(英文) A basic study of local history research with historical materials in primary schools in the Shimoina area

研究代表者

田嶋 一 (TAJIMA, Hajime)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：90146738

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,500,000円、(間接経費) 3,150,000円

研究成果の概要(和文)：飯田市立追手町小学校および同座光寺小学校の所蔵史料について、悉皆的な現状記録調査を行った。史料目録を作成し、学校日誌などの主要な文書についてデジタルカメラ撮影を行った。

また、悉皆調査の成果をもとに、学校所蔵史料を地域史研究の素材として活用するために、今後講ずるべき保存の手立て、史料活用の方法についての検討を行った。

以上、今後の地域史研究および教育史研究を実証的に進展させるための基盤づくりができたことにより、当初の計画にそった成果を挙げたと考える。

研究成果の概要(英文)：We built the foundation for making empirical progress in local history research and local educational history research in the future.

We comprehensively investigated historical materials in the collections of two primary schools in Iida City, Nagano Prefecture, and created lists. We took digital camera photos of major documents, such as the school diary. Furthermore, we examined how to take advantage of these archived school materials for local history research, by improving storage and utilization.

In addition, members set individual research themes and gathered information about historical materials in the Shimoina area, and started the research project.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育学 日本史 地域史 学校史料 小学校所蔵文書 地域社会史 青年期教育

1. 研究開始当初の背景

近代の小学校は、明治新政府の強いイニシアティブのもとで創設された、新しい教育機関である。1872(明治5)年の「学制」は、旧来の文化・教養による共同意識を断ち切り、学校を核とした新たな「文化と教育の共同体」(佐藤学)を形成しようとしたものである。だが、小学校設置の実際はそれぞれの地域にゆだねられ、その土地の実情に応じ、旧来の村落共同体と絡み合いつつ進められていった。

教育史分野において、学区・学校と地域との関わりについての研究は、「学区の公共性」(三上和彦)をめぐる議論などこれまでも積み重ねられてきた。しかしここでは、学区として分割・統合された地域共同体が、学校ないし教育のありよういかに関わり機能したかなどの点に議論が集中しており、学区が地域行政および市民生活の全般においていかなる共同体的機能を担ったか、あるいは担えなかったか、という点について触れられることは少なかったといえる。いっぽう、地域史研究の視点から、小学校を中核とし、これを「磁極」として形成される社会=文化構造に着目する視点を提示したのは吉田伸之である。吉田は「学区共同体」を、市民の地域アイデンティティの核心を形成する決定的なものとして捉えており、重要な視点を提起している。ただし具体的な事例にもとづく研究蓄積はまだ十分になされていない。

かかる先行研究の状況をふまえ、代表者は小学校を地域における社会=文化の中核として捉える視点から、個別具体的な事例をもとに、地域における近代の様相を歴史的にたどる研究が必要との認識をもった。そのためには、小学校所蔵文書を対象とし、悉皆的調査を経たうえでの史料分析が必要不可欠であると考えたのである。

だが、近年の歴史研究を取り巻く環境の変化は大きい。たとえば個人情報保護の意識が高まるなか、行政機関では現用の役割を終えた文書をすみやかに廃棄するシステムが整備され、運用されている。とくに小学校所蔵文書には未成年者の個人情報が含まれるものが多いため、個人情報の管理に留意しつつ、歴史資料としての保存・活用の手立てを早急に講じることが求められる。この点に関しても、悉皆的調査の成果をふまえての対応を考察すべきであるとの認識をもった。

2. 研究の目的

本研究は、飯田・下伊那地域における小学校および小学校区を対象とし、学校史料を保存・分析することを通じて、小学校区を単位とする地域の社会=文化構造を解明することを目的とする。この研究目的を遂行するための前提として、当該地域に豊富に残る小学校所蔵文書の所在状況を調査し、うち2校について、悉皆的な現状記録調査を行い、地域の全体史叙述の基盤づくりに取り組む。

現状記録調査の具体的な素材として、長野県飯田市立追手町小学校・同座光寺小学校を主にとりあげる。前者は、対象地域の中心市街地である飯田町(当時)に1872(明治5)年に創設され、同町および周辺町村を含む地域の拠点校として存在してきた。後者は飯田町の近郊農村である座光寺村に1872年に創設されて以来、1956(昭和31)年に飯田市に合併されるまで、村の教育の中核を担ってきた。この2校を選定した理由は、創設以来の史料を豊富に所蔵していること、当該地域において歴史的特徴を現在にいたるまで色濃く有しており、都市と農村における学校の比較検討など、多様な視角による研究が可能と考えたためである。

3. 研究の方法

(1)まず、対象となる追手町小学校および座光寺小学校について、それぞれユニットを組み、悉皆的な現状記録調査を実施する。

小学校内の資料室に収納されている文書について、調査時点における所在状況を写真およびスケッチにて記録したうえで、史料目録を作成する。原秩序を重視し、かつ移動による紛失のおそれをなるべく軽減するため、整理作業などは行わないこととする。

また、とくに重要と思われる史料に関して、デジタルカメラでの撮影を行う。

(2)追手町小学校の学区である旧飯田町、座光寺小学校の学区である旧座光寺村について、それぞれ関係史料の所在状況を調査する。また、広域ユニットを組織し、飯田・下伊那地域の関係史料の所在状況について調査を行う。

(3)上記(1)および(2)の成果をふまえ、メンバー各自による史料分析を行う。

(4)本研究における調査で得たデジタルデータおよび関係文献について、今後の研究利用に活かすために「学校=地域史アーカイブズ」を國學院大學内に設置する。

4. 研究成果

(1)史料目録の作成およびデジタルカメラ撮影

飯田市立追手町小学校所蔵文書

悉皆調査の結果、約2480点の史料が確認された。内容は多岐にわたる。

以下、特徴を列挙する。まず、学校日誌が創立以来ほぼすべての年代にわたって残されており、日々の学校運営に関する基本的なことが網羅的に把握できる。加えて、職員会記録、当宿直日誌、学年会誌なども部分的に残されており、学校日誌の記述内容を補足することも可能である。

また、対象校はかつて部校制をとっており、学区内に大久保部・浜井場部を設けて低学年の児童を通学させ、尋常科4年あるいは5年以上の生徒が本校部に通うという仕組みをとっていた。その頃の学校運営の様子がうかがえるのが、1920~30年代の部長会記録であ

る。なお、1941(昭和16)年の国民学校令により部校制は廃止され、それぞれ追手町国民学校・浜井場国民学校・大久保国民学校として独立している。学区の編成もこの時に変更されている。

地域と学校の関わりという点からみれば、第2次大戦後、PTA発足時以降の会議録が、部分的にはあるが残っていることが注目される。また、明治前期の飯田町関係文書も複数確認された。戸長役場通達など町役場に関係する史料であり、約15点と数は少ないが重要である。

教育内容とともに地域の様子を具体的に知る手立てとなるのが、児童による作文や自由研究をまとめた冊子『くひん』である。作文から当時の生活がわかるほか、社会科学習として地域の商店街や街並みの様子を児童らが調べており、過去の地域の姿をうかがうことができる。

ほかに、地域の教員組織である下伊那教育会に関する記録が多く残されている。1930年代の会報など刊行物のほか、1910年代から1970年代にかけての会議配布資料も分散的にではあるが確認できる。

上記のような特徴を把握し、研究利用度の高いと思われる史料約220点についてデジタルカメラ撮影を行った。

飯田市立座光寺小学校所蔵文書

悉皆調査の結果、約9720点の史料を確認した。

特徴的なのは、明治初期以来の教科書類が全教科にわたり網羅的に保存されている点である。教師用の指導書も同様に残されている。また、下伊那教育会などが作成した副教材類も残っており、教育内容を具体的にうかがうことができる。さらに、学校創設以前に当地に存在した寺子屋で用いられたと思われる往来物も数点あった。

教育内容に関しては、教員たちの授業研究に関する史料が複数残されていることも興味深い。一例を挙げると、1930年代における生活綴方実践については約20点の記録が残されている。

職員文庫の所蔵と思われる書籍や、地域の有志により寄贈された書籍が数多く残されていることも注目される。地域の教師たちがどういった書物から知識を得、教養を身につけてきたかを知ることができる。

学校日誌が、創設以来ほぼすべての年代について残されているほか、1910年代以降については職員会誌なども保存されているため、学校運営の様子を通時的にたどることが可能である。

地域との関わりについてみると、1899(明治32)年から1937(昭和12)年にかけての同窓会関係書類が約50点残されていることが貴重である。ほかにも男女の青年団関係書類、村の特殊産業調査記録などがある。

また、座光寺小学校は1873(明治6)年に新築された通称「舞台校舎」がよく知られて

いる。村芝居の舞台にも使用できるよう設計された建物であり、実際に舞台として使われた記録はほとんどないものの、校舎は地域の人々により大切に守られ、1983(昭和58)年に移転するまで、長年にわたり増改築しつつ使用されてきた。この、校舎の増改築に関する史料が多数残されており、地域の人々の学校との関わりを具体的に知るためにも重要と思われる。

上記のような特徴を把握し、研究利用度の高いと思われる史料約300点について、デジタルカメラ撮影を行った。

(2) 学校史料の保存・活用に関して

2012年8月、飯田市地域史研究会(飯田市・飯田市教育委員会・飯田市歴史研究所主催)のシンポジウム「地域と歩む教育の歴史」に、企画段階から参加した。本企画においては、地域における学校が果たした役割の重要性に関して、さまざまな視角から検討を行うことを目的とした。佐藤学氏(学習院大学教授)、木下陸奥氏(元飯田市公民館長)の講演のほか、飯田・下伊那地域の教育実践に関連する個別報告を企画した。

本企画の中で、多和田真理子が「飯田尋常高等小学校における『大正自由教育』の試み」として、本研究の調査成果の一部を用いて報告を行った。大正期の古川竹次郎校長が残した執務日誌を主な素材とし、学校日誌などを組み合わせて検討したものである。

小学校所蔵文書の調査および保存活用のあり方について、日本教育史研究会サマーセミナー「学校所蔵資料の収集・活用と保存」において多和田真理子が報告「小学校史料調査から思うこと」を行った。悉皆的な現状記録調査の方法論と、実践により浮かび上がった課題などについて述べた。

(3) 史料の分析および関連史料調査

上記の史料に関する具体的調査に着手するとともに、他の機関が所蔵する関連史料の所在調査を行った。

地域の社会=文化構造に学校が深く関与するのは、人づくりの側面である。その点からいえば、対象地域における中等教育への接続に関しても調査を進めなければならない。そこで追手町小学校を学区に含む飯田東中学校について、史料の所在調査を実施した。1947(昭和22)年の創立期以来の史料多数のほか、戦前の高等小学校に関する史料の所在も確認された。

調査を進めるうちに、当該地域における教員組織である下伊那教育会の影響力を認識した。学校・教員間の情報交換や、地域の実情をふまえての学校運営方針決定など、教育会が地域の学校・教員にもたらす情報は膨大であり、その活動についての理解が、今後の研究活動においては不可欠である。まずは小学校所蔵の教育会関係文書に焦点をあてて分析を行うこととした。

上記に関連して、昭和初期における生活綴方の実践は、下伊那地域出身の国語学者、西尾実の影響を受けて下伊那教育会が主導したものである。教育会の方針に沿って各学校で実践を行う中で、ときには教員が自発的に熱心に取り組むこともあり、また児童の綴方から、教員たちが地域の人々の生活実態を考察することもあった。この点に注目し、飯田市立中央図書館所蔵の関連文献などの収集を行った。

(4)成果の位置づけと、今後の展望

当初の計画においては、小学校所蔵文書の悉皆調査の後、メンバーによる史料の分析にも重点を置いていたが、実際には史料調査に膨大な時間と人手がかかった。調査対象の史料点数が膨大であったことに加え、調査の過程で新たに発見された史料も多数あったことが理由として挙げられる。さらに、調査の参加者には、現状記録調査の方法についての理解と個人情報保護についての厳格な態度が求められるため、適した協力者の確保が困難であった。

本研究の主旨にそくし、まずは史料群の全体像を明らかにすることが急務と認識し、悉皆的な現状記録調査に力点を置くこととした。それにより、小学校において作成・所蔵される文書の多様性を認識することができた。学校運営に関するもののほか、学区の社会=文化構造を解明しうる史料も多数存在することがわかり、地域史研究における活用の可能性を拓くことができたといえる。

このような小学校所蔵文書のもつ史料価値をふまれば、その保存と活用については、今後研究を重ねる中で、方法を具体的に提案していくことが緊急の課題である。一例として、本研究において史料目録を作成し重要な史料のデジタルカメラ撮影を実施したが、個人情報保護に配慮する観点から公開は見送り、研究利用の際には学校長の許可を得て撮影データを提供することとした。このような史料利用のモデルを提示することが、今後の歴史研究の活発化につながるだろう。

また同時に、公開性を高めるためには史料の内容を正確に把握することが必要であり、史料の翻刻および分析を継続的に行うことが求められる。上記(3)で述べたように、本科研の調査成果をもとに、メンバー各自がテーマにもとづく史料分析および関連史料調査に着手しており、研究活動は今後も継続される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

多和田真理子、飯田尋常高等小学校における「大正自由教育」の試み、飯田市歴史研究所年報、査読無、11巻、2013年、30-34
多和田真理子、「学制」にもとづく小学校

設立における校舎の確保 筑摩県の事例より、相模女子大学紀要、査読無、77巻(C)、2013年、77-88

多和田真理子、近代の小学校、飯田市歴史研究所編『飯田・上飯田の歴史(下)』、査読無、2013年、44-49

大西公恵、上飯田村の小学校、飯田市歴史研究所編『飯田・上飯田の歴史(下)』、査読無、2013年、126-131

多和田真理子、デモクラシーと飯田の教育、飯田市歴史研究所編『飯田・上飯田の歴史(下)』、査読無、2013年、152-157

大西公恵、新しい教育の出発、飯田市歴史研究所編『飯田・上飯田の歴史(下)』、査読無、2013年、266-271

多和田真理子、郡立高等小学校の設置と運営をめぐる 長野県下伊那郡の事例から、國學院大學紀要、査読有、50巻、2012年、79-101

吉田伸之、飯田藩の財政と町役人、飯田市歴史研究所編『飯田・上飯田の歴史(上)』、査読無、2012年、126-130

多和田雅保、上飯田村への町人の進出、飯田市歴史研究所編『飯田・上飯田の歴史(上)』、査読無、2012年、184-189

多和田雅保、上飯田村の内分け、飯田市歴史研究所編『飯田・上飯田の歴史(上)』、査読無、2012年、222-226

多和田雅保、幕末維新期の飯田・上飯田、飯田市歴史研究所編『飯田・上飯田の歴史(上)』、査読無、2012年、330-341

[学会発表](計1件)

多和田真理子、飯田尋常高等小学校における「大正自由教育」のこころみ、飯田市地域史研究集会、2012年8月19日、飯田信用金庫本店会議室

[その他]

新聞報道等

「地域史研究に新たな手法 小学校の文書データベース化し分析」中日新聞朝刊、2013年3月12日

研究会報告

多和田真理子、小学校史料調査から思うこと、日本教育史研究会サマーセミナー、2013年8月24日、日本大学文理学部

田嶋一、「修養」「教養」の歴史と飯田・下伊那の青年たちの自己教育運動、飯田アカデミア、2012年7月8日、飯田市役所りんご庁舎

田嶋一、長野県(南信)の自由民権運動と教育の自由・自治、飯田アカデミア、2012年7月7日、飯田市役所りんご庁舎

シンポジウム企画

田嶋一他、地域と歩む教育の歴史、飯田市地域史研究集会、2012年8月18-19日、飯田信用金庫本店会議室

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田嶋 一 (TAJIMA, Hajime)
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：90146738

(2) 研究分担者

木村 元 (KIMURA, Hajime)
一橋大学・社会学研究科・教授
研究者番号：60225050

西島 央 (NISHIJIMA, Hiroshi)
首都大学東京・大学院人文科学研究科・准教授
研究者番号：00311639

多和田 雅保 (TAWADA, Masayasu)
横浜国立大学・教育人間科学部・准教授
研究者番号：10528392

(3) 連携研究者

上山 和雄 (UEYAMA, Kazuo)
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：40137790

齋藤 智哉 (SAITO, Tomoya)
國學院大學・文学部・准教授
研究者番号：80570481

(4) 研究協力者

吉田 伸之 (YOSHIDA, Nobuyuki)
東京大学・大学院人文社会系研究科・名誉教授
研究者番号：40092374

多和田 真理子 (TAWADA, Mariko)
國學院大學・科研費研究員

大西 公恵 (ONISHI, Kimie)
和光大学・現代人間科学部・専任講師

神代 健彦 (KUMASHIRO, Takehiko)
相模女子大学・非常勤講師

瀬川 大 (SEGAWA, Dai)
日本女子体育大学・体育学部・准教授

江下 以知子 (ESHITA, Ichiko)
東京大学・大学院工学系研究科・院生

本島 和人 (MOTOJIMA, Kazuto)
飯田市歴史研究所・調査研究員